

# 令和 8 年 1 月 1 8 日（土）実施 大学入学共通テスト

## 歴史総合、世界史探究出題分析と解法

令和 8 年 1 月 2 3 日（金）

### 第 1 問 近現代における都市の変容（全 8 問）

1 ④ 近現代 欧米 経済 ※資料読み取りと正誤問題の正

2 ② 近現代 多地域（日本含む） 政治 ※資料読み取りと正しい内容の組み合わせ

☆ 「あ」のフランスは、「四国艦隊下関砲撃事件」の「四国」の 1 つなので正しい。「い」の内容は、第一次世界大戦中のサイクス＝ピコ協定。サイクスがイギリス、ピコがフランスの政治家。後者に「フランス人名」っぽさが感じられたら覚えやすいかも。

3 ④ 近現代 日本 多分野（経済・文化） ※資料読み取りと正誤問題の誤

☆ 文化住宅は、大正後半期から昭和前半期のもの。

4 ③ 近現代（戦後） 日本 経済 ※資料読み取りと正しい内容の組み合わせ（グラフ含む）

☆ グラフ読み取り問題。「バブル経済崩壊後の平成不況」がテーマ。

5 ③ 近現代 多地域 政治 ※正誤問題の正

① オランダから輸入ではなく、オランダにとっての輸出用作物（商品作物）として、強制裁培法→プランテーション経営がインドネシアで行われた。

② スペインが拠点としたのは、マニラ（フィリピン）。

☆ マゼラン（とラブラブ）つながりで印象に残る。

④ 英仏の緩衝地帯はタイ。

☆ 映画やミュージカルでいうと、「王様と私」が参考になる。

6 ① 近現代 朝鮮 政治 ※資料読み取りと正しい内容の組み合わせ（地図含む）

7 ② 近現代（戦後） 多地域 多分野（政治・経済） ※資料読み取りと正しい内容の組み合わせ

☆ 「ア」が朝鮮戦争なのは、その前後の「中国の人民義勇軍が…に介入」という言葉がヒント。「義勇軍」は、国際社会に配慮するためのカムフラージュと言える。

8 ② 近現代 多地域 多分野（政治・経済） ※資料読み取りと正しい内容の組み合わせ（グラフ含む）

### 第 2 問 世界史上における様々な方のあり方とその運用（全 7 問）

9 ④ 唐 中国 政治 ※資料読み取りと正しい内容の組み合わせ

☆ 律と令の区別の仕方は、次の通り。「自主自律」の「律」が、自分を律する＝自分で自分の罪を自覚して、罪を犯した際には自分で自分に罰を与えるということだから。

10 ③ 唐 中国 多分野（政治・文化） ※正誤問題の正

① この文治主義は宋代。

② 封建制は周（特に安定していた西周代）。

④ 色目人が活躍したのは元代。モンゴル人の発想は、伝統的にシルク＝ロードなどで交易活動を行ってきた西域の民に「得意なことをさせる」ということ。

11 ① 中世 欧米 多分野（政治・経済） ※資料読み取りと正しい内容の組み合わせ

☆ 「イ」に入る「耕作地の共同利用」は、農奴の保有地（重い農具のターンの回数を減らすために、畑の形を細長くしている）の存在で判る。牧草地は農奴の入会（いりあい）

地の存在で判る。

☆ 「X」のヒントは、牛耕農法が見てとれること。「Y」は 19 世紀フランス画家ミレーの「落ち穂（ぼ）拾い」…美術部の人、否、絵画芸術が好きな人に有利？ 教養？

12 ③ 中世 欧米 多分野（政治・経済） ※正誤問題の正

☆ 「歴史を、教科書的な一面的な見方・画一的な見方で考えないように」とする良問！

13 ⑤ 近現代 多地域 政治 ※資料読み取りと正しい語句の組み合わせ（地図含む）

☆ 資料 6 に登場する「保護国」の人物カベッロ氏の名前が、なんとも「イタリア人名」っぽい…ことがヒントになる？

☆ 地図の「c」がイギリスなのは、中国分割でも他国の勢力圏に「くさびを打ち込む」ような自国の勢力圏設定（ex. ドイツの勢力圏である山東半島におけるイギリスの勢力圏の 1 つ威海衛）から判る。こういった「法則性」に気がつく、俄然、歴史が面白くなる…と思う。「あ、ここにも当てはまるんだ」とか「これは例外として理解しよう」とか。つまり、汎用的な知識になり、丸暗記ではなくなる！ 民族性や国民性、地政学の知見なども、そういった学び方に有効。「〇〇人名」っぽさを知ることその 1 つ。

14 ③ 多時代 多地域 政治 ※資料読み取りと正しい内容の組み合わせ

☆ 「メモ 2」に出てくるシャリーアは、イスラーム法。法的な規範以外では、礼拝などの儀礼的な規範も守備範囲。ここでは、「前近代的な法慣習」と読み取ればよい。

15 ② 古代 欧米 多分野（政治・経済） ※資料読み取りと正しい語句の組み合わせ

☆ 12 同様、「歴史を、教科書的な一面的な見方・画一的な見方で考えないように」とする良問！

### 第 3 問 歴史に触れるきっかけや、歴史を伝える手段について（全 6 問）

16 ④ 近現代 欧米 政治 ※資料読み取りと正しい年代順

☆ 出ました！ 新聞でも大きく取り上げられた「世界史の問題に、『ベルばら』登場」の衝撃！ 私が指導教官の教育実習で、実習生の K さんが授業（アメリカ独立革命～フランス革命）に活用していた資料を思い出す。生徒達にも好評だったなあ。私が授業で作成・配布していた「接着剤ノート」（興味を引き出し、理解を助けるための主にビジュアル資料を、一話完結の毎回の授業ごとにまとめたもの）にも、色んな「歴史マンガ」の場面を掲載していました。パワーポイント＋板書のプレゼン授業になっても、「資料スライド」で使っていたものが多い。ほとんど趣味といったラインナップもありましたが…。

☆ 教科書の章立ての順番でも判るように、原因としての「アメリカ独立戦争へのフランス参戦とフランスの財政危機」と結果としての「旧体制（アンシャン＝レジーム）の動揺とフランス革命勃発」と出来事が年代順に続く。そして、革命の光と影…影の最たる者がロベスピエールらによる恐怖政治と帰結する。TV アニメでは端折らざるを得なかったオスカル死後（バスティーユ牢獄襲撃・占領後）のフランス革命について、『ベルばら』の原作マンガはしっかりと描いている。マリー＝アントワネットの最期についても…。

17 ① 近現代 欧米 政治 ※資料読み取りと正しい内容の組み合わせ

☆ おお、グージュが出てきた！ でも、彼女の悲劇（反革命罪で処刑）については触れないのですね。それは答の大きなヒントになってしまうから。ナポレオン法典も、「近代的法典として画期的なもの」という「教科書的レベル」までの浅い理解では NG ですよ、ということか。良問！

18 ② 多時代 多地域 文化 ※正誤問題の誤

☆ 『集史』の著者ラシード＝ウッディーンはイル＝ハン国の宰相でもあり、そのイル＝ハン国の根拠地（今のイラン）のペルシア語で書いた。「満点取らせないための」難問。

19 ② 多時代 多地域 多分野（政治・文化） ※資料読み取りと正誤問題の正

☆ 「図3」はピカソの「ゲルニカ」。ミレーの「落ち穂拾い」同様、一般教養なのは。「図4」はイギリスの「帝国主義者」セシル＝ローズによるアフリカ縦断政策を風刺したもの。それにしても、セシルもローズもインパクトの強い名前だ。英語です。「この人の名前って、日本語にしたらこんな意味（ローズは「バラ」ですね）になるんだよ」という「無駄話」（いい意味の「脱線」や「余談」）だって、前述の「歴史への興味や理解のための接着剤」になると思う。詳しくは、私のホームページの「意味や語源で覚える世界史重要ターム集」参照。…あれ、「会話文中に登場するアメリカ合衆国大統領」のセオドア＝ローズヴェルト（この人物も典型的な「帝国主義者」）の名前の中にも「ローズ（バラ）」が…！

20 ③ 近現代 欧米 政治 ※資料読み取りと正しい内容の組み合わせ（グラフ含む）

21 ③ 近現代 欧米 政治 ※資料読み取りと正しい内容の組み合わせ

☆ 世界史の舞台の中心ではなく周縁の地、カザフスタンへの目配せ。ソ連時代の「核実験地」としての悲劇にも触れている。「歴史アンテナ」の感度が高まる。

第4問 歴史上に見られた様々な「帝国」のあり方について（全6問）

22 ④ 古代 欧米 政治 ※資料読み取りと正しい内容の組み合わせ

☆ 古代史の問題は、またまたローマ史。プラマイ両面を持つ帝国支配（「統治」とすべきか）の歴史は、「新しい帝国」で多極化していく今の世界情勢を読み解くための「一般教養」になる必要があるということか。

23 ② 古代 欧米 政治 ※資料読み取りと正しい内容の組み合わせ（地図含む）

☆ 「地図Ⅰ」はポエニ戦争後のローマ領（カルタゴの勢力圏だったイベリア半島の大部分が属州として含まれている）。「地図Ⅱ」はトラヤヌス帝の時代、ローマの最大領土（最後の属州ダキア＜今のルーマニアが中心が含まれている）。

24 ④ 前近代 インド 多分野（政治・文化） ※正誤問題の正

① タージ＝マハルの建立はシャー＝ジャハーン。

② ナーナクによるシク教（「しくしく泣く」で覚える）創始は16世紀初。アウラングゼーブは17世紀の皇帝。

③ ロディー朝の打倒によって、ムガル朝が始まった。

25 ① 前近代 インド 文化 ※資料読み取りと正しい内容の組み合わせ

☆ 「い」について。スーフィズム（イスラーム教神秘主義）とウパニシャッド哲学（バラモン教衰退期・新しい宗教としての仏教・ジャイナ教成立期のインド思想）の内容についての知識が問われる問題。倫理選択者には有利な問い。

26 ③ 近現代 多地域 政治 ※資料読み取りと正しい内容の組み合わせ

☆ まさに、「時事問題」問題。今の米大統領トランプの「ドンロー主義」（モンロー主義のトランプ系）批判の筆勢が濃厚。

27 ② 多時代 多地域 政治 ※資料読み取りと正しい内容の組み合わせ

☆ うーむ、これも「私的」に良問。コメントは13と同じで、こういった「法則性」に気がつくと、俄然、歴史が面白くなる…と思う。「あ、ここにも当てはまるんだ」とか「これは例外として理解しよう」とか。つまり、汎用的な知識になり、丸暗記ではなくなる！

第5問 税制度と社会変容（全5問）

28 ② 明・清 中国 経済 ※資料読み取りと正誤問題の正

① 交子・会子は、宋代の紙幣。史上初の紙幣。

③ 両税法は、唐代後半の税制。春と秋の2回（これが「両」の意味）、銭で納めるもの。

④ 正しい内容の③の逆。

29 ① 前近代 トルコ 多分野（政治・経済） ※資料読み取りと正しい内容の組み合わせ

30 ④ 近現代 欧米 経済 ※資料読み取りと正しい内容の組み合わせ

☆ 「X」のコブデンとブライトは、19世紀前半からのイギリスでの自由主義政策の中で生まれた穀物法廃止（小麦の輸入自由化）のために活躍した政治家。「Y」は、南部諸州に対抗するための北部諸州の結束を図るためのものであり、南部諸州を支援しようとするイギリスへの牽制のため。この問題も上に同じ。比較史学の手法にも通じる。

31 ③ 近現代 欧米 経済 ※資料読み取りと正しい内容の組み合わせ

☆ 「ア」は「農地の徴税権を分与する制度」と説明があるように、オスマン帝国のティマル制（イクター制の「オスマン帝国」版）のこと。そしてこの問題も、「歴史の法則性」に注目した良問。

32 ③ 多時代 多地域 経済 ※資料読み取りと正しい内容の組み合わせ

☆ 上に同じ。

<時代別：32問中>

近現代 16問

（うち戦後 2問）

中世 2問

古代 3問

多時代 5問

前近代の中国からは、3問出題

（唐が2問、明・清が1問）

前近代のインドからは、2問出題

（ムガル朝が2問）

前近代のトルコからは、1問出題

以下に昨年度の分析を示す。

<時代別：32問中>

近現代 13問

（うち戦後 2問）

近世 2問

中世 2問

多時代 12問

前近代の中国からは、2問出題

（唐が2問）

前近代のインドからは、1問出題

（ヴァルダナ朝が1問）

戦後：変化なし。

近現代：微増。

前近代（アヘン戦争以前）の中国：少し回復。一昨年度は5問。

多時代：激減。一昨年度は8問。

<地域別：32問中>

欧米 12問

中国	3 問
インド	2 問
朝鮮	1 問
西アジア	1 問
(トルコ 1 問)	
日本	2 問

**多地域 1 1 問**

(うち日本含む 1 問)

以下に昨年度の分析を示す。

< 地域別 : 3 2 問中 >

欧米	1 0 問
中国	3 問
東南アジア	2 問
西アジア	2 問
(インド 1 問、イラン 1 問)	

**多地域 1 4 問**

(うち日本含む 4 問)

欧米 : 少し回復。一昨年度は 1 9 問。

中国など : 中国が減少し、多地域が増加する傾向が継続。一昨年度の中国は 6 問。

多地域 : 微増。大問 1 が日本史の知識を含めた「歴史総合」の設問なので、当然、増加。

< テーマ別 : 3 2 問中 >

政治	1 4 問
経済	6 問
文化	2 問

**多分野 1 0 問**

(政治・経済 6 問、政治・文化  
4 問)

以下に昨年度の分析を示す。

< テーマ別 : 3 2 問中 >

政治	1 8 問
経済	5 問
文化	1 問
その他	1 問 (疫病)

**多分野 7 問**

(政治・経済 5 問、政治・文化

政治：微減。一昨年度は 26 問。政治単独問題の割合は、このまま推移するのか。

経済：微増。一昨年度は 1 問。経済単独問題の割合が多くなってきている。

文化：微増。一昨年度は 4 問

多分野：微増。

<形式別：32 問中>

正誤問題の正	7 問（うち資料読み取り 3 問）
正誤問題の誤	2 問（うち資料読み取り 1 問）
正しい語句の組み合わせ	2 問（資料読み取り 2 問）
正しい内容の組み合わせ	20 問（グラフ含む資料読み取り 3 問、 地図含む資料読み取り 3 問、 その他の資料読み取り 14 問）
年代順問題	1 問（資料読み取り 1 問）

以下に昨年度の分析を示す。

<形式別：32 問中>

正誤問題の正	8 問（資料読み取り 8 問）
正誤問題の誤	1 問（資料読み取り 1 問）
正しい語句の組み合わせ	1 問（資料読み取り 1 問）
正しい内容の組み合わせ	20 問（グラフ読み取り 3 問、資料読み取り 17 問）
年代順問題	2 問（資料読み取りと正しい年代順 2 問）

正誤問題の正：資料読み取り以外が、少し復活。

正誤問題の誤：上に同じ。

正しい語句の組み合わせ：ほぼ変化無し。

正しい内容の組み合わせ：変化無し。これが昨年度スタートした新カリ・新科目の出題の「目玉」。一昨年度は 10 問だったから、倍増している。

地図問題：回復。一昨年から、2 年続けては 0 問だった。

年代順問題：ほぼ変化無し。

5 年前にスタートした「大学入学共通テスト」に続いて、「歴史学習の新しい扉」を開いた今年度の「新カリキュラム・新科目＝歴史総合、世界史探究」2 年目の問題を、上記のように分析した。予想通り、新しい学習指導要領で重視されている 2 つの力＝「思考力」と「判断力」を求める形式での出題が、昨年度同様多かった。

昨年度はおそらく「平均点を一定程度高止まりさせるためや、新カリ・新科目 1 年目ということでハードルを下げた」作問として、文化史の激減や地図問題の出題皆無という「意外性」が見られたが、今回は「正常化」している。

昨年度の日本原水爆被害者団体協議会へのノーベル平和賞受賞や昨年が被爆（あわせて第二次世界大戦終戦）80 周年だったこと、さらにはアメリカのトランプ大統領（2 期目。憲法の 3 選禁止原則があるので、あと 3 年続く。…あ、でも「原則無視」はありうる）の動き（パリ協定からの再脱退や多様性の価値重視などに対するバックラッシュ＜反動や揺り戻し＞、2 国間のディール外交に基づく高関税政策など）が、去年この分析で予想した

とおり今年度の共通テストの作問に大きく影響していることを感じた。「今とこれからについて考えるためのヒント」としての世界史の面目躍如と言えよう。

以上 分析と文責 向出研司 2026（令和8）年1月23日（金）